

# Bi 層状構造酸化物 $\text{Bi}_{2.5}\text{Li}_{0.5}\text{Nb}_2\text{O}_9$ の常誘電性

本 間 健 祐

## Paraelectricity of Complex Bismuth Compound with Layer Lattices $\text{Bi}_{2.5}\text{Li}_{0.5}\text{Nb}_2\text{O}_9$

Kensuke HOMMA

### Abstract

The complex bismuth compound with layer lattices  $\text{Bi}_{2.5}\text{Li}_{0.5}\text{Nb}_2\text{O}_9$  was found in the system  $\text{Bi}_5\text{Nb}_3\text{O}_{15}$ - $\text{LiNbO}_3$ . From X-ray diffraction data, the crystal system of  $\text{Bi}_{2.5}\text{Li}_{0.5}\text{Nb}_2\text{O}_9$  is determined to be tetragonal with the lattice parameters  $a=0.386$  nm and  $c=2.486$  nm at room temperature. From electrical properties, this compound is not ferroelectrics at room temperature.

### 1. 緒 言

変位型酸化物強誘電体は、構成イオンの半径の大きさが考慮されなければならないが、頂点共有の酸素八面体( $\text{BO}_6$ )型から成り立つ構造の化合物に見いだされることが多い。そのような構造には、有名なペロブスカイト型( $\text{BaTiO}_3$  など)のほかに、イルメナイト型( $\text{LiNbO}_3$  など)、タングステンブロンズ型( $\text{Ba}_2\text{NaNb}_5\text{O}_{15}$  など)、パイロクロア型( $\text{Cd}_2\text{Nb}_2\text{O}_7$  など)および Bi を含む層状型( $\text{Bi}_4\text{Ti}_3\text{O}_{12}$  など)などのものがある<sup>1,2)</sup>。

これらの中で、Bi を含む層状型強誘電体は、ペロブスカイト型の構造が $(\text{Bi}_2\text{O}_2)^{2+}$  層で断ち切られた構造、すなわち $(\text{A}_{m-1}\text{B}_m\text{O}_{3m+1})^{2-}$  で示されるペロブスカイト類似層 ( $m$  は  $\text{BO}_6$  の層数であり、 $\text{ABO}_3$  の層数で見ると  $m-1$  層となる。)と $(\text{Bi}_2\text{O}_2)^{2+}$  層から成る構造で、一般式が  $\text{Bi}_2\text{A}_{m-1}\text{B}_m\text{O}_{3m+3}$  ( $\text{A}$ : Na, K, Sr, Ba, La, Pb, Bi, B: Ti, Cr, Fe, Nb, Mo, Ta, W) と表される層状型化合物である<sup>3,4)</sup>。このような構造からも分かるように、その特異な結晶構造に起因す

る諸性質の大きな異方性を示すこと<sup>5,6)</sup> から、そしてまた、室温における電氣的損失が比較的小さいことから、物性面ばかりでなく圧電材料としてや高周波用の誘電体材料として実用面からも興味深い物質グループである<sup>7)</sup>。

酸素八面体  $\text{NbO}_6$  は  $\text{TiO}_6$  などと同じように大きな分極率を持ち、そしてまた、 $\text{Bi}^{3+}$  が  $\text{Pb}^{2+}$  と同じように方向性を持った共有結合をすると考えられる<sup>8)</sup> ことから、 $\text{NbO}_6$  を有する Bi 層状構造酸化物は大きい屈折率を有する可能性があり、あわせて強誘電的性質をもつことが期待される。

$\text{Bi}_5\text{Nb}_3\text{O}_{15}$  と  $\text{NaNbO}_3$  の擬二成分系において、上述の一般式の  $m$  が 2, 4, 5 の 3 種の層状型化合物の存在が確かめられ<sup>9)</sup>、 $\text{Bi}_5\text{Nb}_3\text{O}_{15}$  と  $\text{KNbO}_3$  の擬二成分系においても、 $m$  が 2 の化合物の存在が確かめられたが<sup>3)</sup>、 $\text{Bi}_5\text{Nb}_3\text{O}_{15}$  と  $\text{LiNbO}_3$  の擬二成分系においても、また、 $m$  が 2 の  $\text{Bi}_{2.5}\text{Li}_{0.5}\text{Nb}_2\text{O}_9$  化合物が存在することが分かった。

$\text{Bi}_{2.5}\text{Li}_{0.5}\text{Nb}_2\text{O}_9$  の構造は、下に示す実験結果から、上述の Na や K のものと、Li 原子の位置が基本的には同じで、図 1 に示すように、 $(\text{Bi}_{0.5}\text{Li}_{0.5}\text{Nb}_2\text{O}_7)^{2-}$  と表されるペロブスカイト類似

平成 4 年 10 月 17 日受理

・ 一般教育部教授